

# 確かな学力

## 1. 目指す姿

基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、自ら進んでこれらを活用し、新たな学びを創造する学習に取り組んでいます。

## 2. 基本方針

- (1) 学習指導の充実を図り、全国トップレベルの学力を目指します。
- (2) 一人ひとりの学力を伸ばす指導の充実を一層図ります。
- (3) 教育的ニーズをふまえ、グローバル化に対応する子どもを育てます。
- (4) 教科や学びの関連性・系統性・連続性を踏まえた指導を推進します。
- (5) 家庭の教育力を生かす連携や実践を推進します。

## 3. 各種施策の実施状況及び成果、課題（現 教育振興基本計画の検証作業）

「確かな学力」については、児童生徒の学力向上に向け、「幼・保・小・中接続推進事業」や「学力グレード・アップ事業」等の各種事業に取り組んでおります。

成果としましては、学校と家庭、小学校と中学校が連携して子どもたちの9年間の学びを支える体制が強化されたことや標準学力検査の結果分析及び指導事例集などの活用により「わかる・できる授業」の推進などが挙げられます。

課題としましては、いわゆる中1ギャップの原因を具体的に把握・分析し、校種間で連携をとりながらその解決策を見出していくことと小・中学校の算数・数学の学力向上であります。

## 4. 基本方針を推進・実現するための主な重点事業

### (1) 学力グレード・アップ事業

小学2・4・6年生に対し国語・数学の2教科、中学1・3年生に対し国語・数学・英語の学力検査（NRT）を実施し、知能との関連で分析を行うとともに、全国学力・学習状況調査についても結果を分析し、児童生徒の学力の実態を把握することにより、個に応じたきめ細かな指導や指導法の改善に努め、一人ひとりの学力を向上させる。

## (2) 学力向上サポート事業

各学校における学力検査の分析結果等から見出された課題等の解決のため、中学校数学を中心として、学習支援員・サポーターを配置し、生徒の学習のきめ細かなサポートおよび学校や教職員の学習指導に係る業務の補佐等を行うことにより一人ひとりの学力を向上させる。

## (3) 英語教育接続推進事業

小学校高学年における英語教育の教科化、中学年における外国語活動の導入に伴う指導内容の高度化や授業時数増加に対応できる指導体制の強化、さらに、小学校の学習内容の高度化に伴う中学校英語教育の指導法の工夫等により、児童生徒の英語力の向上を図る。

## (4) 世界に羽ばたくふくしまっ子育成事業

次世代を担う子どもたちが、多様な人材との交流や講演会等を通して、将来の夢や志をはぐくみ、これまで以上に意欲的に学校生活を送ることができるよう支援する。

## 5. 主な指標

指標名		現状値 (H26)	目標値 (H32)	説明
標準学力検査における児童生徒の平均偏差値 (小学2・4・6年、中学1・3年)	小学校	2年 55.3 4年 53.4 6年 54.0 全体 54.2	小学校全体 56.0	きめ細かな授業の充実や家庭学習の習慣化等により、小学校の学力向上の取組の状況をはかる指標です。全小学2・4・6年あわせた学力検査（NRT）の平均偏差値を56.0以上となることを目指します。
	中学校	1年 51.6 3年 52.4 全体 52.0	中学校全体 55.0	小中学校の円滑な接続、小中学校の学習の充実を図ることにより、中一ギャップの改善や中学校の学力向上の取組の状況をはかる指標です。全中学1・3年をあわせた学力検査（NRT）の平均偏差値を55.0以上となることを目指します。
バランスド・アチーバーとオーバー・アチーバーの合計の割合	小学6年	92.1%	100%	個に応じたきめ細かな指導により学力向上への取組状況を測る指標です。小学6年生のバランスド・アチーバーとオーバー・アチーバー※の合計の割合100%を目指します。
	中学3年	85.7%	100%	個に応じたきめ細かな指導により学力向上への取組状況を測る指標です。中学3年生のバランスド・アチーバーとオーバー・アチーバーの合計の割合100%を目指します。

※バランスド・アチーバーとオーバー・アチーバー：

知能と学力との相関を見ると子どもたちが能力を十分に発揮して学習効果を上げているかどうかわかります。

○バランスド・アチーバーとは、知能と学力のバランスが取れている状態です。

○オーバー・アチーバーとは、知能に比べて学力が高い状態です。

○アンダー・アチーバーとは、知能に見合った学力が発揮されていない状態です。